

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第3地区）

| 国 語 | | 東京書籍 |
|--------------|--------------------|---|
| 総 評 | | <p>日常生活に必要な国語の特質を理解し、適切に使うことができるような内容が多く取り上げられている。特に入門期における指導内容が充実し、字を書く姿勢や鉛筆の持ち方、ひらがな・カタカナ・漢字練習と丁寧な配列がなされ、指導がしやすくなっている。</p> <p>1年上の巻頭教材において、全面原色の挿絵が使用されており、目に優しい配色とは言えない。初めて出会う教材としては強烈な印象を受け、ユニバーサルデザインの視点からも課題を感じる。</p> |
| 特に優れている点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | <p>○ 国際理解・防災・環境・情報など今日的課題を扱った教材が各学年に適切に配列され、安心・安全な社会づくり実現のために私たちがなすべきことについて、考えを深めることができるよう配慮されている。①</p> |
| | 2 内容の取扱い | <p>○ 各学年に図書館の利用を呼びかける単元や「本は友だち」などの図書紹介の単元を設けるとともに、単元ごとに「こんな本もいっしょに」という項目を設け、関連図書資料が掲載されている。紹介図書数が大変多く、わかりやすい解説や鮮明な写真を使用し、児童が進んで本を手に取りたくなるような工夫や年間を通じて継続的な読書活動が行われるような工夫がなされている。⑥</p> |
| | 3 外的要素 | <p>○ シンプルで親しみやすい装丁である。①</p> <p>○ 入門期の文字の大きさ・フォント・行間などが適切で、初めて国語を学ぶ児童にとって読みやすいものとなっている。②</p> |
| | 4 構成・配列 | <p>○ 「話す・聞く」「書く」「読む」のすべての単元に「言葉の力」が明示されており、何ができるようになるかを明確に示しながら、確かな言葉の力が身に付くように工夫されている。②</p> |
| | 5 資料・その他 | <p>○ 付録として、巻末資料を掲載している。その内容やまとめ方・提示方法などが工夫されており、振り返り学習や発展学習の参考として活用しやすくなっている。①</p> <p>○ 二次元コードを使用し、インターネットを通じて学習に役立つコンテンツを配信している。児童のペースや興味・関心に応じて、学習の予習や復習・発展などが容易にできるよう工夫されている。②</p> |
| 特に工夫・配慮を要する点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | <p>○ 二次元コードを利用したコンテンツは便利で有効であるが、家庭でのスマートフォンやタブレット利用が促進されるため、場合によっては児童に弊害を及ぼす危険性をはらんでいる。①</p> <p>○ 1年上「こえをとどけよう」では、児童の名前を呼ぶ際「けんたくん」「あいさん」と、性別による呼び分けがされており、人権教育の観点から課題があると思われる。⑤</p> |
| | 2 内容の取扱い | <p>○ 3年「パラリンピックがめざすもの」等、説明文に児童がイメージしにくい抽象的な言葉が多く、理解がやや難しいものがある。③</p> |
| | 3 外的要素 | <p>○ 内容が充実していることもあり、やや分厚く低学年の児童にとっては扱いにくい。①</p> <p>○ 入門期の巻頭教材において、全面原色の挿絵が使用されており、目に優しい配色とは言えない。初めて出会う教材としては強烈な印象を受け、ユニバーサルデザインの視点からも課題を感じる。③④</p> |
| | 4 構成・配列 | <p>○ 6年の意見文を書く教材は教科横断的な視点で構成されているが、扱っているテーマが難しく、例文が適切ではない。①</p> |
| | 5 資料・その他 | <p>○ 1年巻末ひらがな・カタカナ資料が観音開きになっており、当該学年の児童には扱いづらいことが予想される。②</p> |

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第3地区）

| 国 語 | | 学校図書 |
|--------------|--------------------|--|
| 総 評 | | <p>言葉の響きやリズムを体感することができるよう、入門期の詩のかぞえうたから始まり、俳句や短歌・漢詩などの教材が系統的に配列されている。また、四季の移り変わりを大切にしてきた日本人の感性や情緒を育めるような単元の設定がされており、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う内容となっている。</p> <p>文学教材に目新しさが感じられず、児童たちの生活実態から考えると理解が難しい内容となっているものもある。</p> |
| 特に優れている点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | ○ 2～6年に「季節のたより」として、日本人が育んできた季節に関する言葉を扱い、日本の文化や地域の文化を尊重しようとする態度を養うことができるよう工夫されている。 |
| | 2 内容の取扱い | <p>○ 「言葉をつないで文をつくらう」という単元が設定され、既習漢字を使って文作りを行うことにより、学習したことを日常生活に活用しようとする態度を育てることができるよう配慮されている。②</p> <p>○ 児童に身近なテーマ設定を行い、対話を通して協働的に学ぶことができるようになってきている。児童が見通しをもちながらスモールステップで学習に取り組むことができるよう教材の構成に工夫がなされている。③</p> <p>○ 全学年に「読書のへや」を設けることで、読書に親しむ態度の育成を通して望ましい読書習慣が育成できるよう配慮されている。⑥</p> |
| | 3 外的要素 | <p>○ 製本が丈夫で、文字の大きさや書体、色づかいなどレイアウトを工夫している。①②</p> <p>○ 点字資料は実際に触って確かめられる凹凸の物を使用し、ユニバーサルデザインについても紹介しており、障がい者理解教育に役立てられる。④</p> |
| | 4 構成・配列 | ○ 各学年の学習内容が着実に習得できるよう、単元ごとに目標をわかりやすく提示したり、学習内容の振り返りや学んだことを生かしたりできるよう構成の工夫がされている。② |
| | 5 資料・その他 | ○ QRコードを使用し、インターネットを通じて学習に役立つコンテンツを配信している。児童のペースや興味・関心に応じて、学習の予習や復習・発展などが容易にできるよう工夫されている。② |
| 特に工夫・配慮を要する点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | ○ QRコードを利用したコンテンツは便利で有効であるが、家庭でのスマートフォンやタブレット利用が促進されるため、場合によっては児童に弊害を及ぼす危険性をはらんでいる。① |
| | 2 内容の取扱い | ○ 1年上「たぬきことばであそびましょう」は入学時の早い段階で学ぶ内容としては、やや難しいと思われる。⑤ |
| | 3 外的要素 | ○ 挿し絵の色づかいやデザインが児童の興味・関心をもたせるには、大人しすぎる感があり、時代に合っていないように思われる。① |
| | 4 構成・配列 | ○ 昔ながらの名作教材（文学教材）が多いが、今の児童たちにはイメージがしにくいため、理解が難しいと思われるものがある。② |
| | 5 資料・その他 | <p>○ 1年巻末資料「ひらがな・カタカナ一覧表」は二つ折り資料であるが、1年児童にとっては扱いづらく、折れ曲がったり破れてしまったりしてしまうこともある。②</p> <p>○ 巻末資料「授業で使う言葉」は文字の大きさや色づかいに工夫がなく児童が意欲をもって取り組める資料とはなっていない。②</p> |

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第3地区）

| 国 語 | | 教育出版 |
|--------------|--------------------|---|
| 総 評 | | <p>日常生活に必要な国語の特質を理解し、適切に使うことができるような内容が取り上げられている。特に入門期における指導が丁寧で、絵を見て聞く話すページが多く設けられ、鉛筆の持ち方、書く姿勢、ひらがな練習、カタカナ練習、漢字練習ときめ細かく指導ができるよう配列が工夫されている。</p> <p>児童の興味関心を引くため挿絵や文字の配置を工夫しているが、かえって読みにくくなったり、内容をとらえにくくなったりする教材もある。</p> |
| 特に優れている点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | ○ 各単元で習得した力を有効に活用できるよう、活動の手順を分かりやすく丁寧に示すことにより、児童が主体的に学ぶことができるよう工夫されている。③ |
| | 2 内容の取扱い | ○ 日常生活の中で、言語文化を意識したり見直したりできるような教材が各学年に設けられている。児童の理解を助けるために4コマ漫画などを取り入れ、楽しみながら学習できるよう工夫されている。② ○ 「読む」単元末や、各学年巻末付録に「本を読もう」を設け、関連図書の紹介や各学年で読んでおきたい本が掲載されている。わかりやすい解説や鮮明な写真を使用し、児童が進んで本を手に取りたくるような工夫や継続的な読書活動が行われるような工夫がなされている。⑥ |
| | 3 外的要素 | ○ 1年「くまさんとありさんのごあいさつ」では、くまさんとありさんで文字のフォントを極端に変え、児童が物語に親しみやすい工夫がなされている。② ○ フォントが大きく、余白も十分に取られ、読みやすい。② ○ 点字資料は実際に触って確かめられる凹凸の物を使用しており、障がい者理解教育に役立てられる。④ |
| | 4 構成・配列 | ○ 各学年の目標や内容を踏まえながら、社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間等、他教科への学習の広がりを意図した取り組みが可能なるよう構成や配列が工夫されている。① ○ 巻頭に「〇年生で学ぶこと」巻末に「国語の学習 これまでこれから」を設け、学びの見通しや振り返りができるように工夫されている。② |
| | 5 資料・その他 | ○ QRコードを使用し、インターネットを通じて学習に役立つコンテンツ「まなびリンク」を配信している。児童のペースや興味・関心に応じて学習の予習や復習・発展等が容易にできるよう工夫されている。② |
| 特に工夫・配慮を要する点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | ○ QRコードを利用したコンテンツは便利で有効であるが、家庭でのスマートフォンやタブレット利用が促進されるため、場合によっては児童に弊害を及ぼす危険性をはらんでいる。① |
| | 2 内容の取扱い | ○ 文学教材や詩など多くの教材が掲載されているが、言葉のよさや言語感覚を養うには、児童の興味・関心が湧きにくいもの、少し難解に感じるものがある。④ |
| | 3 外的要素 | ○ フォントが大きい分、やや分厚く、低学年には扱いにくい。① ○ 1年上「けむりのきしゃ」では一行の文字数が多く、入門期の児童にとって、文を読むのが難しいと思われる。② |
| | 4 構成・配列 | ○ 教科横断的な配列がなされているが、例文の工夫がやや不足しており、児童が意欲的に取り組みにくいように感じる。① |
| | 5 資料・その他 | ○ 1年巻末資料の「ひらがな・カタカナ一覧表」は、二つ折り資料であるが、1年児童にとっては扱いづらく、折れ曲がったり破れてしまったりしてしまいうこともある。② ○ 巻末資料「学ぶときに使う言葉」が羅列的で使いづらいため、児童の興味・関心をもたせにくい。② |

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第3地区）

| 国 語 | | 光村図書出版 |
|--------------|--------------------|--|
| 総 評 | | <p>児童の発達段階や特性などを踏まえつつ、論理的思考力や感性が培われるような言葉や語彙にふれる場が多く設定されている。また、国語科で学習したことを他教科や日常生活と結びつけ、活用できるような教材も多数用意されている。言葉を通して学ぶ楽しさと人とつながる楽しさを実感できるよう工夫されている。</p> <p>教材文は名作が数多く取り入れられているが、児童にとってはやや難解なものもあり、児童の実態に合わない状況も予想される。</p> |
| 特に優れている点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | ○ 情報の扱い方に関する事項について2～6年生で教材化されている。情報を的確に理解し、表現につなげたり、自分の考えに生かしたりしていけるよう工夫されている。② |
| | 2 内容の取扱い | ○ 入門期における指導「えんぴつとなかよし」では書写との関連を図り鉛筆の持ち方、書く姿勢について、文章を唱えることでしっかりと意識し身に付けられるよう工夫されている。⑤ ○ カンジー博士という親しみやすいキャラクターを用い、児童が興味関心を持ち、楽しみながら漢字習得ができるよう工夫されている。⑤ |
| | 3 外的要素 | ○ 製本が丈夫で、表紙の絵も児童に親しみやすく、厚さも適切で低学年児童でも扱いやすい。① ○ 全学年書き文字に近い字体を使用し、低学年は太く見やすい大きさになっているため、読みを助ける効果が期待できる。② ○ 点字資料は実際に触って確かめられる凹凸の物を使用しており指文字についても紹介しており、障がい者理解教育に役立てられる。④ |
| | 4 構成・配列 | ○ 見開き1ページを使用し、見やすく簡潔に学習の進め方を示している。「何を、何のために、どう学ぶか」が、ひと目でわかるよう構成を工夫することで、児童が学習の見通しをもって学習したり振り返ったりすることができる。② |
| | 5 資料・その他 | ○ 二次元コードを使用し、インターネットを通じて学習に役立つコンテンツを配信している。各教材に適切に示され、使いやすくその内容も充実している。児童のペースや興味・関心に応じて、学習の予習や復習・発展などが容易にできるよう工夫されている。② ○ 巻末付録「学習を広げよう」では、児童が興味をもち、学習意欲を引き出すように工夫するなど、児童の視点で作られている。② |
| 特に工夫・配慮を要する点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | ○ 二次元コードを利用したコンテンツは便利で有効であるが、家庭でのスマートフォンやタブレット利用が促進されるため、場合によっては児童に弊害を及ぼす危険性をはらんでいる。① |
| | 2 内容の取扱い | ○ 他教科との関連、今日的課題等についても工夫がなされているが、児童の興味・関心が湧きにくい例文もあり、意欲的な学習につながりにくいと思われる。① |
| | 3 外的要素 | ○ 1年上の読み物教材では、文字が詰まっておき、入門期の児童には読みにくく感じられると思われる。② ○ 挿し絵は多く取り入れられているが、児童が興味をも7つ写真は少ないように感じる。③ |
| | 4 構成・配列 | ○ 取り扱っている教材には、少し難解なものがあり、学力に自信のない児童にとっては負担になる場合もあるのではと懸念される。② |
| | 5 資料・その他 | ○ 1年上巻末資料「ひらがな一覧表」は二つ折り資料であるが、1年児童にとっては扱いづらく、折れ曲がったり破れてしまったりしてしまうこともある。② |